

2021/1/3-2

(うと Q 世話し 危ない予感)

コロナ渦における最近の我が国の混乱や言い争いを見て感じたのは

「結局我が国国民は内心、善王の専政を求めている」

のではないか?という事でした。

絶対に誤解して戴きたくないのは、自分がそれを欲しているということではないことです。観察の結果、そう見えてきたというお話です。

スーパークリーンで非の打ち所のない、全国民を利する善政を瞬時決断して超法規的に実行する善王。

民主主義などと言う手間暇コストのかかる面倒な物をしなくてすみ、全て任せておけば自分たちにとって最良の結果を齎して(もたらして)くれる存在(それを願うのは一種の思考停止状態による「疲弊からのくつろぎ」)

それは、丘の上から民のかまどの煙が立ち上っている数がすくないのを憂えた古代の王の故事から連想される物のような気がします。

しかし王とて、人の子。善王がいつ悪王に代わるとも限りません。

そうなると悪王の超法規的独断専政ほど最悪な物はなくなってしまいます。

そうなりやすいのは、ひとえに全ての民にとっての善政などあり得ないからです、民同士の利害が相反するからです。それを全包含した善政などありよう筈ありません。

それで、どうなるかと言えば、一部の民の利害と結びついた場合、その民にとっての善王が、他の民にとっての最悪王になってしまうわけです。そこまでは行かなくとも少なくとも「分断の素」となります。

それを防ぐために、民主主義という面倒くさいが監視をし、交代を促すシステムが生まれたような気がします(ただし民主主義というのは最大公約数(許容共通項)を求める物であって、完全無欠でも一点の非の打ち所のないものでは決してありません。ある意味欠点だらけ不備だらけです)

その面倒くささと不備を嫌って、今コロナ渦の混乱の中で「善王による専政」への内心の希求が高まっているのだとしたら、とても危険なことのような気がしてなりません。

民主主義を初め、AIによる思考代替など、ひとが手間暇、面倒くささ、不断の努力を厭い(いとい)始めた途端、墮落や人間の能力の低下が始まる危ない予感がしてなりません。